

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970900161		
法人名	医療法人忠友会		
事業所名	グループホーム武田の里		
所在地	韮崎市神山町北宮地8番地		
自己評価作成日	平成23年12月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成24年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>医療法人として、診療所・デイケア・訪問介護、看護・居宅支援事業所などを併設しています。自然に囲まれた環境のため住宅が少なく、地域住民との交流は少ないですが、多機能な事業所としての特性を活かし、日々のケアにあたっています。</p> <p>利用者様の「その人らしさ」を大切に、安心してその人らしく生活できるような場所を目指し、職員が一体となって取り組んでいます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>閑静な住宅地の中にあり2階建の2ユニットになっている。1階にはウッドデッキがあり、車いすの利用者も戸外に出ることが可能である。</p> <p>病院、通所リハビリテーション、訪問看護等の事業所が併設され、リハビリテーションで機能訓練している利用者もいて、併設されている利点を活用した安心した生活が送られている。また、認知症対応型デイサービスとして、グループホームで週3回、数名の通所利用者を受け入れていて、入所者との交流もできている。3か月毎に、発行されている事業所だよりには、行事等の詳細が掲載され、職員が日々取り組んでいる様子が窺える。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホーム武田の里

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F すみれ)	ユニット名(2F さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に運営理念を掲示したり、定期的なミーティングなどで管理者・職員ともに皆が理念を共有して実践できるように努めている。	事業所内に運営理念を掲示したり、定期的なミーティングなどで管理者・職員ともに皆が理念を共有して実践できるように努めている。	「その人らしく、暮らしていける」を理念に、毎月の職員会議で職員が再確認し、楽しく、その人らしく自立した生活が送れるようケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域住民との交流が難しい面もあるが、福祉のイベントに参加したり、地元の学生との交流の機会を設けている。	地域住民との交流が難しい面もあるが、福祉のイベントに参加したり、地元の学生との交流の機会を設けている。	新興住宅地のため、若い人たちの世帯で地域との交流は難しいが、地域のお祭りに参加したり、高校生のボランティア、職員の子どもが訪問している。	地域との交流が困難ではあるが、地域密着という事から、運営推進会議に出席する民生委員から様子を聞き、自治会等に加入するなど、地域との交流を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	韮崎市の認知症ネットワークの活動に参加させていただいている。また入居者以外の方であっても認知症に関連した困りごとについては、相談に応じ連携できるような体制を作っている。	韮崎市の認知症ネットワークの活動に参加させていただいている。また入居者以外の方であっても認知症に関連した困りごとについては、相談に応じ連携できるような体制を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の介護保険担当者や地域包括支援センターの方、民生委員にも協力していただき活動報告を行ったり、困難な事例の検討会などを行っている。	市の介護保険担当者や地域包括支援センターの方、民生委員にも協力していただき活動報告を行ったり、困難な事例の検討会などを行っている。	2か月に1回、平日の午後開催している。困難な事例を挙げて検討したり、地域包括支援センターの職員からは、介護保険の改正、インフルエンザの状況等の情報を得ている。夜間の防災を想定して、昼間に一人体制で訓練を実施してはとの意見が出た。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や地域包括支援センターにグループホームだよりを届けて普段の活動を知らせているほか、市内や市外での認知症に関連する情報をいただいたり、気軽に連絡できる体制を作っている。	市や地域包括支援センターにグループホームだよりを届けて普段の活動を知らせているほか、市内や市外での認知症に関連する情報をいただいたり、気軽に連絡できる体制を作っている。	市の担当者からは、メールで情報が届く。地域包括支援センター主催のケアマネジャーの研修会が2か月に1回あり、出席している。また、事例検討の研修会をグループホームにて開催してくれるなど、関係がつくられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯のため夜間のみ玄関の施錠はしているが、それ以外は拘束にあたる行為は行っていない。やむをえない場合は本人・家族の同意のもとで行なう取り決めはあるが、現在該当者がいない。	防犯のため夜間のみ玄関の施錠はしているが、それ以外は拘束にあたる行為は行っていない。やむをえない場合は本人・家族の同意のもとで行なう取り決めはあるが、現在該当者がいない。	玄関は日中解放し、夜間のみ施錠している。行政から毎年拘束に関するアンケートがあり、職員が記入し再確認している。身体拘束についての12項目をフロアに掲示し意識づけがされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員ともに虐待の防止に努めている。虐待の可能性のあるケースに気づいた場合には、地域包括支援センターなどに迅速に相談を行なっている。	管理者・職員ともに虐待の防止に努めている。虐待の可能性のあるケースに気づいた場合には、地域包括支援センターなどに迅速に相談を行なっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修に参加したり、利用者・家族にも必要に応じて制度の説明もしているが、今のところ制度を活用したいという方がいない。	権利擁護についての研修に参加したり、利用者・家族にも必要に応じて制度の説明もしているが、今のところ制度を活用したいという方がいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書面だけでなく、必ず内容について口頭で説明を行なっている。不安や疑問な部分については、その場で回答し、納得したうえで契約を結んでいただいている。	契約時には書面だけでなく、必ず内容について口頭で説明を行なっている。不安や疑問な部分については、その場で回答し、納得したうえで契約を結んでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F すみれ)	ユニット名(2F さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望がないかこちらから尋ねているほか、無記名で意見できるように玄関に意見箱を設置している。	意見や要望がないかこちらから尋ねているほか、無記名で意見できるように玄関に意見箱を設置している。	家族が面会に来た時に、意見を聞くことができる。湯たんぽを入れてほしいとの要望があり対応した。 また、3か月毎に発行しているおたよりでグループホームの様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行なう事務局・管理者・職員によるミーティング内で、職員からの意見や提案を聞ける時間を設け、運営に反映できるよう心がけている。	毎月行なう事務局・管理者・職員によるミーティング内で、職員からの意見や提案を聞ける時間を設け、運営に反映できるよう心がけている。	毎月全体会議を事務長、事務局職員、日勤職員で開催している。ユニット毎にある連絡ノートを活用し提案、気づきを会議の中で検討し反映している。 出席できなかった職員には、議事録をもとに意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現況においては規定上の昇給が困難ではあるが、有給休暇などは取りやすい環境にある。研修への参加時などは勤務時間として扱うように配慮をしている。	現況においては規定上の昇給が困難ではあるが、有給休暇などは取りやすい環境にある。研修への参加時などは勤務時間として扱うように配慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の予定や資格講座について、回覧により職員に周知している。また内部研修の機会を設け、外部に出づらぬ職員も気軽に勉強できるような環境を目指している。	研修の予定や資格講座について、回覧により職員に周知している。また内部研修の機会を設け、外部に出づらぬ職員も気軽に勉強できるような環境を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の活動や県のグループホーム協会の活動などを通じ、同業者と交流する機会を多く設けている。	市の活動や県のグループホーム協会の活動などを通じ、同業者と交流する機会を多く設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に医師・管理者・介護支援専門員が本人の不安や要望についての相談に乗っている。入居前の家庭での過ごし方や、他サービス利用時の様子も確認しながら、安心して過ごせるように準備させていただいている。	入居時に医師・管理者・介護支援専門員が本人の不安や要望についての相談に乗っている。入居前の家庭での過ごし方や、他サービス利用時の様子も確認しながら、安心して過ごせるように準備させていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人とは別に家族とも話し合いの時間を設け、家族の不安や要望にも耳を傾けている。入居後も、家族の状態に変化がないか、できるだけ把握できるように努めている。	本人とは別に家族とも話し合いの時間を設け、家族の不安や要望にも耳を傾けている。入居後も、家族の状態に変化がないか、できるだけ把握できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて隣接する診療所でのリハビリに参加できるようにしたり、居宅介護支援センターとも相談しながら適切な支援が行えるように努めている。	必要に応じて隣接する診療所でのリハビリに参加できるようにしたり、居宅介護支援センターとも相談しながら適切な支援が行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割を持っていただいたり、共同作業を行なうことで、お互いに支え合える関係を目指している。ただし、心身状態が重度化してきていることもあり、困難さも感じている。	役割を持っていただいたり、共同作業を行なうことで、お互いに支え合える関係を目指している。ただし、心身状態が重度化してきていることもあり、困難さも感じている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F すみれ)	ユニット名(2F さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・外出・外泊の提案をして交流が途切れないようにしたり、通院時はできるだけ家族に付き添いをお願いし、本人の現在の状態を正しく把握していただけるように心がけている。	面会・外出・外泊の提案をして交流が途切れないようにしたり、通院時はできるだけ家族に付き添いをお願いし、本人の現在の状態を正しく把握していただけるように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の面会もお願いしたり、馴染みの美容院や町内会の会合などにも継続して参加できるように支援している。	友人・知人の面会もお願いしたり、馴染みの美容院や町内会の会合などにも継続して参加できるように支援している。	介護度が重度化してきている利用者もいて、対応できる利用者との差が出ているが、継続支援をしている。家族の送迎で無尽(お茶会)に毎月出席したり、馴染みの美容院に行ったりしている。お正月には、家に外泊したり、外出した利用者もいた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方と会話がしやすい座席配置を心がけている。利用者同士のコミュニケーションが難しい方は、職員が関わる時間を多く持つように心がけている。	仲の良い方と会話がしやすい座席配置を心がけている。利用者同士のコミュニケーションが難しい方は、職員が関わる時間を多く持つように心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後であっても家族からの相談には応じている。必要に応じて他サービス利用に係るサービス担当者会議にも出席している。	退去後であっても家族からの相談には応じている。必要に応じて他サービス利用に係るサービス担当者会議にも出席している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向などに変化がないか、会話を通じて把握している。意志の疎通が難しい方については、家族に尋ねたり、本人の立場に立って考えるようにしている。	本人の意向などに変化がないか、会話を通じて把握している。意志の疎通が難しい方については、家族に尋ねたり、本人の立場に立って考えるようにしている。	日常会話の中から思いなどの把握をしている。本人の立場になって考え、入居前の様子を家族、友人等に聞き、対応する努力をしている。把握困難な場合には、家族等から聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の聞き取りのほか、入居前に利用していた事業所がある場合には、その時の様子なども伺いに行くようにしている。	生活歴の聞き取りのほか、入居前に利用していた事業所がある場合には、その時の様子なども伺いに行くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のシートを活用したり、部屋ごとに担当者を決めることで、より具体的に本人の現状が把握できるように努めている。	センター方式のシートを活用したり、部屋ごとに担当者を決めることで、より具体的に本人の現状が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・担当職員との話し合いや、医師・理学療法士からの意見も求めながら、多角的に本人の状態を把握して介護計画を作成するようにしている。	本人・家族・担当職員との話し合いや、医師・理学療法士からの意見も求めながら、多角的に本人の状態を把握して介護計画を作成するようにしている。	本人、家族の要望を聞き、職員、医師、理学療法士等で3か月毎にモニタリングしている。状況が低下した場合、家族の意見を聞き見直しをしている。リハビリやレクリエーション、歌、家事など利用者の好みも入れた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ごとに記録を作成し、参考にしている。重要な事柄については、連絡ノートなどを利用し全ての職員が把握できるようなかたちを取っている。	利用者一人ごとに記録を作成し、参考にしている。重要な事柄については、連絡ノートなどを利用し全ての職員が把握できるようなかたちを取っている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F すみれ)	ユニット名(2F さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	形式にとらわれず、他の事業所にも相談を行いながら、本人にとってその時必要なことを優先して実践できるように心がけている。	形式にとらわれず、他の事業所にも相談を行いながら、本人にとってその時必要なことを優先して実践できるように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全員ではないが、可能な限り本人をこれまで支えてきた地域資源との関係を失わないように支援している。	全員ではないが、可能な限り本人をこれまで支えてきた地域資源との関係を失わないように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できるだけ入居前のかかりつけ医に継続して診察していただき、こちらからも情報提供を行なうように心がけている。	できるだけ入居前のかかりつけ医に継続して診察していただき、こちらからも情報提供を行なうように心がけている。	家族対応で、かかりつけ医の受診が基本となっている。家族対応ができない半数の利用者は、併設の病院で受診している。認知症専門医の受診もあり、家族に職員が同行する事もある。受診結果は、電話にて家族に報告し、変更のあった時は文書で伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日ではないが、看護師の資格を持った職員が体調観察している。緊急時は隣接する診療所の医師や看護師、訪問看護師にも協力していただき、迅速に対応している。	毎日ではないが、看護師の資格を持った職員が体調観察している。緊急時は隣接する診療所の医師や看護師、訪問看護師にも協力していただき、迅速に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の様子を確認に伺ったり、病院の相談員と頻りに連絡を取りながら、連携に努めている。	入院中の様子を確認に伺ったり、病院の相談員と頻りに連絡を取りながら、連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針について同意をいただいている。方針として必ずターミナルケアを行なうというわけではないが、現在も重度化が進んでいて自然と終末期に合わせた対応になりつつある方もいる。	看取りに関する指針について同意をいただいている。方針として必ずターミナルケアを行なうというわけではないが、現在も重度化が進んでいて自然と終末期に合わせた対応になりつつある方もいる。	入所時に、看取りに関する指針に同意をもらっている。利用者全員がターミナルケアにしているのか検討している。家族と連携を取りながら2名の利用者の看取りを行なった。看護師のいる時間帯であれば、点滴等を行うなどケース毎に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員も応急手当などは理解しているが、日中は隣接する診療所の医師や看護師と協力している。夜間は難しいが、迅速に対応できるように連絡体制は構築している。	職員も応急手当などは理解しているが、日中は隣接する診療所の医師や看護師と協力している。夜間は難しいが、迅速に対応できるように連絡体制は構築している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力は難しい面があるが、防災訓練は定期的に行なっている。	地域との協力は難しい面があるが、防災訓練は定期的に行なっている。	地震と火災を想定して防災訓練を実施した。建物の構造上、2階からの誘導非難が困難である為、消火器等の点検で消防署の訪問があった時に、指導を受けている。運営推進会議で夜間、一人体制を想定した訓練の提案があり、今年度予定している。	事業所だけでなく、地域住民の参加、協力を得ることが望ましいが、地域の消防団等にグループホームの実情を伝え、協力関係を築いていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉のかけ方に注意している。またプライバシーに関する書類は別室に保管すると共に、職員間で話題にする際には利用者のいない場所で行なっている。	言葉のかけ方に注意している。またプライバシーに関する書類は別室に保管すると共に、職員間で話題にする際には利用者のいない場所で行なっている。	言葉かけには注意している。利用者の呼び方については、苗字、または以前から呼ばれていた呼び名で呼んでいることもある。意思の確認が困難な利用者もいるが、できる限り対応している。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F すみれ)	ユニット名(2F さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行なう場合には必ず意志を確認し、強制することがないように心がけている。	何かを行なう場合には必ず意志を確認し、強制することがないように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝など基本的にその人のこれまでの生活ペースを尊重し、自分のペースで暮らしていけるように支援している。	起床・就寝など基本的にその人のこれまでの生活ペースを尊重し、自分のペースで暮らしていけるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院を利用していただいたり、デイスサービスの方と一緒に散髪をしてもらうなど配慮している。着たい服がある時には、家族に購入をお願いしている。	行きつけの美容院を利用していただいたり、デイスサービスの方と一緒に散髪をしてもらうなど配慮している。着たい服がある時には、家族に購入をお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望の品を行事食にしたり、キザミやトロミなどに対応しているほか、栄養摂取が困難になっている方についても好きだったものを用意している。準備や片付けはほとんどの方が難しく、ごく一部の方のみである。	利用者の希望の品を行事食にしたり、キザミやトロミなどに対応しているほか、栄養摂取が困難になっている方についても好きだったものを用意している。準備や片付けはほとんどの方が難しく、ごく一部の方のみである。	献立は、併設している施設の栄養士が作成している。日曜日、イベント等は利用者の希望を聞いて利用者と一緒に準備等をして能力を活かせる様取り組んでいる。食事を支援しなければならぬ利用者も多く、職員も見守りながら一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設事業所の栄養士に協力していただき献立を作ることで、バランスの良い食事の提供を心がけている。食事量、水分摂取量の記録を取り、受診の際には医師に診察の参考にしていただいている。	併設事業所の栄養士に協力していただき献立を作ることで、バランスの良い食事の提供を心がけている。食事量、水分摂取量の記録を取り、受診の際には医師に診察の参考にしていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きや入れ歯の洗浄を促したり、必要な方には介助を行なっている。	歯磨きや入れ歯の洗浄を促したり、必要な方には介助を行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はできるだけおむつは使用せず、パターンに合わせての誘導を行なっている。夜間のトイレ回数が多い方などは、部屋にポータブルを設置し併用していただいている。	日中はできるだけおむつは使用せず、パターンに合わせての誘導を行なっている。夜間のトイレ回数が多い方などは、部屋にポータブルを設置し併用していただいている。	排泄チェック表を基に、利用者毎に時間を決めてトイレ誘導をしている。夜間、トイレ移動が困難な利用者はポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	整腸作用のある飲食物の摂取を促したり、運動の機会を設けている。排便の有無を毎日チェックし、便秘が続いている場合には内服による排便コントロールを行なっている。	整腸作用のある飲食物の摂取を促したり、運動の機会を設けている。排便の有無を毎日チェックし、便秘が続いている場合には内服による排便コントロールを行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前・午後どちらでも可能だが、利用者の重度化もありすべて希望通りにはできていない。また平日は体調の変化に備えて、できるだけ隣接する診療所の医師がいる時間にさせていた	午前・午後どちらでも可能だが、利用者の重度化もありすべて希望通りにはできていない。また平日は体調の変化に備えて、できるだけ隣接する診療所の医師がいる時間にさせていた	重度化している利用者もいて、基本的には病院の医師のいる時間帯の午前・午後に入浴が可能である。一番風呂を希望する利用者の配慮もしている。入浴を拒否する利用者には、タイミングを計って声掛けの工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F すみれ)	ユニット名(2F さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中休憩する時間を設けているほか、個々の希望や体調に応じて自由に休んでいただけるようにしている。夜間、寒い時には希望に応じて湯たんぽや電気毛布も使用できる。	日中休憩する時間を設けているほか、個々の希望や体調に応じて自由に休んでいただけるようにしている。夜間、寒い時には希望に応じて湯たんぽや電気毛布も使用できる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容に変更があった場合や、用法や副作用に特別な注意が必要な場合には、連絡ノートを利用して職員全員が理解できるように努めている。	薬の内容に変更があった場合や、用法や副作用に特別な注意が必要な場合には、連絡ノートを利用して職員全員が理解できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味の活動の支援や、役割を持てるようにアプローチしているが、重度の方も増えてきて難しくなっている部分もある。	趣味の活動の支援や、役割を持てるようにアプローチしているが、重度の方も増えてきて難しくなっている部分もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に散歩や日光浴、ドライブなどを行なっている。職員だけでの対応が難しい場合には、家族にも買い物や外食の機会を作っていたい。	定期的に散歩や日光浴、ドライブなどを行なっている。職員だけでの対応が難しい場合には、家族にも買い物や外食の機会を作っていたい。	家族と一緒に買い物や外食に行く利用者もいる。お弁当を持って公園に行ったり、お天気の良い日には、近くに散歩に行き花を摘んでくることもある。車いすの利用者は、庭に出て気分転換を行なっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方については自分のお金で買い物をするお手伝いもさせていただいているが、できない方も多いので頻繁ではない。	一部の方については自分のお金で買い物をするお手伝いもさせていただいているが、できない方も多いので頻繁ではない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の方は自分の意志でしっかり電話ができるため、支援させていただいている。全員は難しい。	一部の方は自分の意志でしっかり電話ができるため、支援させていただいている。全員は難しい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、イベント時の写真などを飾ったりすることで、楽しく過ごせるようにしている。	季節の花を飾ったり、イベント時の写真などを飾ったりすることで、楽しく過ごせるようにしている。	広い玄関には季節の花が飾られ、バリアフリーになっているフロアにつながっている。壁には、おたよりが掲示され、お誕生日に利用者がメイクアップして楽しそうな様子や、高校生が訪問した写真が飾られている。日当たりのよい居間で居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的な座席の設定はあるが、その日その時の希望でどこで過ごすかは自由である。	基本的な座席の設定はあるが、その日その時の希望でどこで過ごすかは自由である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や布団を自由に持ち込んでいただいている。	使い慣れた家具や布団を自由に持ち込んでいただいている。	ベッド、防火カーテン以外は、使い慣れたものを持ち込んでいる。テレビやカセットラジオ、お気に入りの歌手の写真が飾られている。猫を飼っていた利用者は、本物と見間違えるような猫のぬいぐるみがベッドにおり、一緒に生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー環境で安全を確保しているほか、手すりなどを利用して、自立した動作ができるような環境を提供している。	バリアフリー環境で安全を確保しているほか、手すりなどを利用して、自立した動作ができるような環境を提供している。		